

メディア・リテラシーにおけるオーディアンスの二重の能動性 —世界のメディアモニター調査からメディア・リテラシー活動への展開を事例として—

登丸 あすか

近年、日本においてメディア・リテラシーへの関心が高まり、市民活動や学校教育、メディア組織などの領域で、多様な活動が活発に展開されている。メディア・リテラシーは、私たちの日常生活にメディアが深く浸透するメディア社会において、主体的に生きるために必要な力であると同時に、日本のメディア状況の改善やメディア変革を目指した活動でもある。メディア・リテラシーにおける能動的なオーディアンスは社会変革の主体として位置づけられる重要な存在であるが、具体的に能動的なオーディアンス像を提示する研究はまだ緒に就いたばかりであり、それを明らかにすることは重要な課題と言える。

本研究では、従来の研究で断片的に提示されてきたオーディアンスの全体像を捉え、メディア・リテラシーにおけるその役割を明らかにするために、オーディアンスの能動性を2つの異なる位相で捉える。一つは、メディアの分析や制作における個人の能力に関する「個人的能動性」である。ただし、この個人的能動性は、メディア・リテラシー活動のあり方に大きく左右されるものである。メディア・リテラシーが公教育としてではなく、市民活動として展開してきた歴史をもつ日本の文脈では、メディア・リテラシー活動を創り、支えるプロセスにおいても、オーディアンスの能動性はさまざまに発揮されてきた。ここでは、そのようなメディア活動を支える能動性を「社会的能動性」とする。

本研究の課題は、「個人的能動性」と「社会的能動性」という2つの視点からオーディアンスの能動性を分析し、メディア・リテラシー活動においてオーディアンスが果たす役割を明らかにすることである。またその結果から、日本のメディア状況を変革するために必要とされるメディア・リテラシー活動とは何かを明確にしようと試みる。

本研究で分析対象として取り上げるのは、グローバル・メディア・モニタリング・プロジェクト(GMMP)からメディア・リテラシーへと展開する日本独自の一連の取り組みである。GMMPとは、世界のニュースメディアを市民の手で一斉に行うモニター調査活動であり、日本から¹¹⁾のモニターグループが参加した。そしてGMMPのモニター調査を実施した後、日本のテレビニュース番組を対象に、映像技法や音声技法に着目した独自の分析を行い、そのテキストを用いて、GMMPに参加したモニターグループと共にメディア・リテラシーワークショップを実施した。さらに、それらのグループのうち、継続的にメディア・リテラシー活動を実施している2つのグループを訪問し、インタビュー調査を行った。

分析の結果は次のとおりである。個人的能動性という視点でみると、メディア・リテラシーワークショップに参加したオーディアンスは、GMMPのモニター調査の結果と比較してより深くメディアを読み解いていることがわかる。つまり、GMMPのモニター調査で終わるのではなく、メディア・リテラシーワークショップへと展開することで、個人の能動性はより積極的に発揮されたのである。さらに、2つのモニターグループを対象に、社会的能動性という視点から分析を行った結果、オーディアンスは、メディア・リテラシーのワークショップを通して、多様な視点や対話などメディア・リテラシーの学びに必要な要素の重要性を理解し、そうした要素を活動のあり方にも反

映させていることがわかる。モニターグループのメンバーは、その活動のあり方に魅力を感じ、継続的に参加する。その結果、モニターグループの活動が持続し、日常的なメディア・リテラシーの学びの場へと展開していたのである。オーディアンスにはこの2つの能動性が重なり合う形で内在しており、そのような二重の能動性が互いに刺激しあうことによって、メディア・リテラシー活動が展開されていたことが明らかになった。したがって、メディア・リテラシー活動におけるオーディアンスは、単に個人的な能力を獲得するだけでなく、活動を支える役割も果たしていることがわかる。

また、オーディアンスの二重の能動性が互いに刺激し合うようなメディア・リテラシー活動は、メディアの変革を目指す上で、次の2点において重要であると考えられる。一つは、メディア・リテラシー活動を通してオーディアンスが主体性を獲得することにより、オーディアンスがそれぞれの事情に即してメディア変革に向けた取り組みを進めていく可能性をもつことである。もう一つは、メディア・リテラシー活動のプロセスにおいて、市民とメディア組織、政府・行政という3者のパートナーシップが構築されていたことである。このパートナーシップは、日本のメディア状況を改善するために必要であると指摘されているものである。本研究で取り上げた事例は、メディア変革という大きな目標に対してはわずかな一歩に過ぎないが、メディア・リテラシー活動のプロセスにおけるオーディアンスの社会的能動性に着目することによって明らかになったことであり、メディア・リテラシー活動のダイナミズムを示すものである。